

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100063		
法人名	有限会社 メルシー		
事業所名	グループホーム メルシー長橋 (ひめかみさんユニット)		
所在地	盛岡市長橋町5-15		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100063&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員自ら、家族が入所したいと思える施設作りを目標としていく。
一人一人の個別性を重視し、能力に応じた役割作り、楽しみ方を築いて行く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の生活の中で、利用者一人一人の変化や何らかの課題をポストイットを利用して全職員で抽出、毎日の夕礼で報告、話し合い、問題解決に取り組む姿勢は大変優れていると感じた。また、利用者の担当職員を決めており、家族への月例報告、介護計画を受け持ち、やり取りをする中で利用者や家族の信頼を得ている。年間の研修計画を作成している。マナーから実践研修まで月例全体研修を行い、外部研修への参加および復命伝達研修も充実している。協力医師や、訪問看護ステーションと連携を図り、終末期対応ケアを経験したことにより職員間の結束も深まり、職場作りも良好である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり いっしょに たのしみながら 一人一人の その人らしさを大切に」 毎朝礼時に全員で唱和し、意識付けを行っている	毎日の朝礼で理念を唱和し、利用者に対する接し方や体調面を理念に沿って話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々から野菜を頂いたり、畑を通じてアドバイスを頂いたり、ボランティアの方の来所時に近所の方も見物にいらしたり、回覧板を回しに訪問したりと交流が図られている	地域にグループホームを知って欲しいという事もあり、「メルちゃん便り」を年4回発行し、町内会回覧板に入れていただいている。町内会長、民生委員の協力を得ている。町内会の行事や子ども会の行事に利用者、職員と見学や、参加をして、お互いの理解を深め合っている。地区の夏祭りでは椅子を出してくれたり障害物を除いてくれたりと気遣っていただき感謝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での話題にしたり、相談でいらした方や利用者の家族へ支援についてや、症状等のアドバイスをを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態像や暮らしぶり等を報告し、参加者から質疑を受け、情報交換を行い地域交流の活用をしている。	町内会長や利用者の家族にも参加して頂き、ケアの具体的な取り組み、日々の暮らしぶり、研修や行事を報告し、意見を頂いたり情報交換を行い、地域交流やサービスに活かしている。町内会長、保健推進員(お隣り)が委員で、よく声を掛けてくださる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加をして下さる地域包括支援センターの方が市町村の代理ということで、情報交換は行っており、会議録を毎回、市町村へ提供している。	運営推進会議の会議録を毎回市に送り理解を得たり、地域包括支援センターの担当者と情報交換を行い、課題解決に向けて協働関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、職員一同に理解をして貰い廃止に取り組んでいる	事業所内の研修や各ユニットの会議にて、新人を含めて全職員に理解を促し、日々の中で個別的に工夫を行い、ケアに取り組み、職員同士の協力にて、身体拘束をしない取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、職員一同に理解をして貰い防止に努めている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム メルシー長橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度のパンフレットを常備し相談等での場で活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明を活用し十分に説明を行い、更に契約書の説明を行い、質問を受けながら理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時などに要望などが無いか声をかけ話して頂き易いように配慮している。アンケートの実施で意見を徴収し運営に反映させている。	家族アンケート調査を行い、職員全員で確認し、意識の統一を心がけている。来訪時に担当者が分かる様に、担当者の名前をお部屋に貼ることとなった。担当者は責任を持って利用者、家族の意向、要望聴取し、運営反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別的な面談、職員会議等で意見等を聞き、運営に反映させている。	中堅の職員は毎月、新人職員は2、3ヶ月に一度、その他落ち込んでいる等何か問題がありそうな時は個別に面談を行い、職員会議等で率直な意見、提案、要望を出し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価の提出を下に面談を行い、職員の意識把握を行い、職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際や力量把握の為に書式作成にて個々の力量を把握し、アドバイスを行い、研修機会の確保に努めている。働きながら養成校への通学をさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が行っている活動に参加機会を確保し研修や交流機会等を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階で本人の置かれている状況、状態、家族意向等を聞き取らせていただき、入居日が近づいた段階で訪問にて、環境把握、状態、家族意向を再度、お聞きし安心確保に向けた関係作りを図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、本人や家族の意向が反映されるように、要望や困っている事へのアプローチを図りスムーズな入居、家族の不安感の緩和等を行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際し、本人や家族の意向をお聞きし、必要としている支援を見極め、情報提供し確認、同意の下、入居初日には支障が無いように他のサービスとの連携を構築している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見極め、できる限り参加型の生活を築けるように全職員で取り組み、お茶時間の共有等にて関係作りの強化に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との時間共有を優先し、本人が安心感を持って頂けるようにし、面会後の感情不安定等は職員がフォローする事で、家族の協力の下、本人を支える関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会の機会が1回でも多く得られるようにホームへの用事を作るようにしている。町内会の方の面会なども快く受け入れている。	入居後はいつでも面会に来ていただけるように連絡を取ったり、支払い等は窓口に来ていただいている。またケアプランの説明に来訪して頂いている。入居者友人も遊びにくることもある。入居前からの馴染みの美容院に定期的に行くなど関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の観察に留意し、座席の配置や職員の座席等を工夫し、孤立防止や支えあう関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に、電話や訪問の方がおりますが、必要に応じてアドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居に際してのアセスメントを行う時に、家族や本人の意向をお聞きし参考にしてている。日々の生活の中で状態観察、コミュニケーションを通じ意向に配慮している。	入居時、意向を本人・家族から聞き取るだけでなく、利用者さんの日々の変化や思い、希望を職員全員で一日の流れを通して観察し、ポストイットに書き込み個々の把握に努めている。個別日課サービス、共通サービス、支援内容、家族の意向、カンファレンス、プラン作成へとつなげる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際してのアセスメントや、入居後に本人や家族とのコミュニケーションの中からも汲み取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別性を重視した観察、能力の見極め取り組み実施や朝礼、夕礼を行い、情報共有に努め職員間での情報把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別性を重視したより良い暮らしをして頂く為に一人一人の気づきを共有する、ケアのあり方については、その必要性から家族との相談をする、カンファレンス、夕礼で検討確認し合う等を行い連携性をたかめている。	利用者に対する気づきを全職員で観察し、夕礼で共有、またタイムテーブルで把握した課題等を担当者だけでなく、カンファレンスにて検討、話し合い、個別で現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録台帳、申し送り台帳、支援連携記録、気づき記入のポストイット貼り付けながら支援や介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、美容院等、都度のニーズに即した送迎や買い物代行、更新申請代行、カット依頼等の支援に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム メルシー長橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	万が一、行方不明になった時などの為に警察署にSOS情報を個別的に作成し、情報提供にて依頼している。消防署と連携し避難訓練を行いアドバイスを参考に緊急時のイメージトレーニングに活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂き通院や往診などにより、医師との情報交換や送迎支援等を行っている。家族が送迎時にも情報提供等、図っている。	協力医へ変更した入居者が70%程いる。受診ノートが有り、医師や家族の情報交換も良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問をして頂き、一人一人の情報を伝え体調管理を行っている。適宜、処置や医師との相談等も行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医から入院先の医師への依頼連絡にてスムーズな入院の確保、入院先へは職員が出向き、生活情報などを伝達し、入院中も本人への面会、状態の情報収集にて退院調整等、円滑な関係作りを図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携、終末期対応について説明を行い、状態変化が見られた時には家族さんとの話し合いを行い、意向確認や医師からの状態説明を家族に行い連携した支援を行っております。	看取りの希望者がある。これまで2人の方の終末期の看取りの対応をした。協力医と訪問看護師の連携が、職員の意識と連携体制も更に高めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を行い、マニュアルを参考に職員が対応できるように努力しており全職員が救命蘇生講習を受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などで消防署員の方からのアドバイスを参考にイメージトレーニングや地域の方への要請などを連絡網に組み込んでおります。	年2回(日中・夜間)消防訓練を行っている。その際、消防署から避難訓練では、入居者を一ヶ所に集合させ救助を待つよう指導を受けた。町内会で災害マップを作成する予定である。また、町内会、近隣の方への協力も要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修にて職員へプライバシー、人格尊重に配慮するように勉強会を行い対応しております。	マナー、自分が嫌なことは他人も嫌なこと、礼儀を尊重するよう訪問看護ステーションから講師を紹介して頂き、勉強会を行いました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が与える決定ではなく、利用者から意向を聞きながら決定できる支援に配慮しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムの確立が困難な方が多いので体調に影響しやすいパターン以外は個別性に配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方におしゃれ道具の準備をお願いしたり、カットボランティアの要請を行う、美容室への送迎、行事には化粧を楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを能力に応じて皮むきや刻む、盛り付ける、買い物に行く、かたづけ、洗う、拭く等、参加している。個別的な嗜好に合わせた外食を楽しんでいる	入居者の個別の希望に沿って、個人対職員で出かけ、好みの食事(外食など)や買い物を楽しむ機会を作っている。職員は、個人の思いや嗜好、普段言わない事を話したり、利用者さんの生き生きとした場面を見付ける事が出来て、その後の信頼関係を深める事に役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に水分摂取量の記載、申し送り台帳に食事摂取量の記載等を行い、個別的な把握に努め、嗜好品に配慮した摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日課となっており衛生士さんによる支援事業を受け入れ個別的な支援をアドバイス頂き実践している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム メルシー長橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ使用での排泄を基本に支援している。夜間の失禁パターンのチェックなどによりトイレ使用での排泄につなげている。	夜間失禁の対応で2時間おきに尿量調査を2週間行い、適切な誘導が出来るようになった。ポータブルトイレは使用者はいない。トイレ誘導時、すっきりしましょう等、トイレと言う言葉以外の声掛けの工夫も施行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを共有し、飲み物や腹部マッサージの支援等にて排便の促しを行い、できるだけ薬品に頼らないように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今、入りたい。今日入りたい、今日は嫌だ等、柔軟な対応で喜んで頂いている。	利用者さん本人の希望を優先し、家族の協力を持って入浴されている方もいる。また日によって、入浴したくないと言う方には、清拭、カテキン足浴を行なう等柔軟な対応を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間、夜間覚醒でホールでくつろいだりと個別性を重視し安眠に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬等、各自の管理を行い、服薬時に手渡しやお口への支援を行っている薬情を添付し作用の把握に努め、体調観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた役割作りを強化している嗜好品への家族や本人の意向確認にて、おやつやお茶飲み等に配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望で出かける方、促して出かける方、個別的な意向で出かける、地域の行事へ出かける等、支援を行っている	ボランティアの美容師が来訪してくれることもあるが、近くの馴染みの美容院へ出かけることの支援を行っている。入居者が回覧板をお隣りまで持って行ってくれる。日々の様子に合わせ、散歩や買い物、ドライブに行ったり、家族と外出や温泉に宿泊される方もいる。また地域の行事に参加することもある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム メルシー長橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理している方もおり、買い物代行を職員が行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	受身的に電話や手紙を取り次ぐ事が多いがいつでも希望は叶えられる様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方にとっては困惑を招く器具がある時には、速やかな代替品を検討し不快や混乱を招かないようにしている	冬に浴室の暖房用にハロゲンヒーターを置いたところ、火事を思い出して興奮し、不穏になった利用者さんがいた。それぞれの利用者を十分に観察し不快や混乱を招くことがないよう配慮に努めている。家庭的な雰囲気を五感から取り入れられるよう、家庭的な雰囲気づくりにも力を注いでいる。炬燵(こたつ)がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	精神的な汲み取りを行い、一人になれる居場所作り、気の合った同士のお茶飲み場所作り等に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、慣れ親しんだ物を使用できるように、家族との一時を過ごせるように家族の協力の下、工夫している	入居者それぞれの個性が感じられる設えである。馴染みの家具(椅子、テーブル)や日用品、写真立て、布団がみられ、各居室が個性的で、その人らしい居室作りがされていて、とても居心地の良い雰囲気を醸し出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活を通した機能維持に留意し、環境を活かして安全に留意した取り組みを行っている		